



# 次期政権は対中強硬か トランプ待望論も浮上

呉軍華 ● 日本総合研究所理事

ドナルド・トランプ氏とヒラリー・クリントン氏のどちらの候補が大統領になったとしても、対中強硬路線を取る可能性が高い。だが、どちらかといえば、中国人の間ではトランプ氏の方が人気が高い。

トランプ氏は「中国からの輸入品に45%の関税をかける」中国は為替操作をしている」などと露骨な反中姿勢を取っている。中国も表向きは警戒を強めており、3月中旬には政府系新聞に、「トランプ氏の当選はテロに値する」という見出しの記事が掲載された。

それでもなお、本音ではトランプ氏の方が好ましいと感じている中国人が多いのは、批判の矛先が経済に向けられているためだ。経済面であれば、中国も落としどころを見つけやすい。経済の互恵関係が出来上がれば、米中関係も安定すると期待しているのだ。

それに対して、クリントン氏は国務長官時代に、南シナ海での軍事行動やサイバー攻撃などに対し、中国を強く非難してきたこともあり、強

いトラウマがある。人権や民主化などの「価値観」で中国を批判するところも、手ごわい交渉相手に映る。

他方、今回の大統領選挙は、図らずも、中国共産党に自信を与えた面もあるようだ。トランプ氏は、移民排斥などのポリテイカル・インコレクト（政治的タブー）を口にし、有権者の心をつかんだ。民主党のバーニー・サンダース氏は、財政を無視して学費無料などの理想主義を掲げて、大躍進した。有権者が、自分たちの不満を代弁してくれているか、自分たちの生活に恩恵を与えてくれるかどうかを投票の基準にしており、ポピュリズム（人気主義）に陥っている。

共産党にとっては、これは西側民主主義がテッドロック（行き詰まり）に乗り上げたかのように見える。一党独裁の自分たちの方が国の将来を考えて政治運営を行っている、と、自信を深めてもおかしくない。（談）



ご・ぐんか／中国・復旦大学を卒業後、1990年に東京大学大学院博士課程修了。2006年より現職。ワシントンD.C.で中国研究を行っている。